

決算の概要

平成26年度の一般会計決算について、その概要を説明いたします。

一般会計の予算規模は、

当 初 予 算	61億円
国庫補助の決定等に伴う補正	16億8,280万1千円
最 終 予 算	77億8,280万1千円

となり、平成25年度に比べて6.7%の増額予算となっています。

さらに、平成25年度からの繰越明許事業費2億1,210万1千円を加えますと79億9,490万2千円となり、平成25年度に比べて、6.1%の増額予算となります。

この予算に対しての決算額は、

歳 入	73億8,784万9千円
歳 出	71億6,159万3千円
歳 入 歳 出 差 引 額	2億2,625万6千円

となります。

なお、平成26年度決算においては、平成27年度へ繰越明許費繰越額の一般財源等4,111万6千円があり、次の第3表で示すように歳入歳出差引額からこの翌年度へ繰越すべき財源を差し引いた額が実質収支額であります。その結果、1億8,514万円の黒字決算となり、3~5%が望ましいとされている実質収支比率(臨時財政対策債発行可能額を含めた標準財政規模に対する割合)は4.1%となりました。

また、単年度収支(平成26年度実質収支と平成25年度実質収支の比較)を見ると、▲2,568万3千円の減額となりました。

平成26年度中、歳入面では、積極的に財源の確保に努める一方、歳出面では、行財政改革に
取り組むとともに、集中管理等による一般行政経常経費を節約するなど効率的な予算の執行
に努めました。

この結果、実質収支が黒字となり収支の均衡を図ることができました。

しかしながら、一般財源である町税は税制改正等により増額となったものの、町の主要な財源である
地方交付税が減額となるなど、地方財政を取り巻く環境は厳しい状況であります。

このような状況の中、義務的経費等は年々増加の傾向にあることから、「門川町行財政改革構
想」に盛り込んだ実施計画に基づき、行財政改革を強力に推進し、財政の健全化に努めていく
必要があります。

◎ 最近5力年の決算収支状況

(単位:千円・%)

区 分		平成26年度	平成25年度	平成24年度	平成23年度	平成22年度
歳 入 決 算 額	A	7,387,849	7,395,860	6,992,157	7,236,045	7,515,164
歳 出 決 算 額	B	7,161,593	7,162,072	6,771,392	7,014,650	7,282,060
形 式 収 支 (A-B)	C	226,256	233,788	220,765	221,395	233,104
翌年度へ繰越すべき財源	D	41,116	22,965	15,624	21,124	46,975
実 質 収 支 (C-D)	E	185,140	210,823	205,141	200,271	186,129
単年度収支(現年度E-前年度E)	F	▲ 25,683	5,682	4,870	14,142	0
財 政 調 整 基 金 積 立 金	G	220,970	261,103	311,317	411,275	363,016
繰 上 償 還 金	H	0	0	0	0	0
財 政 調 整 基 金 取 崩 額	I	220,000	220,000	200,000	200,000	186,000
実質単年度収支額(F+G+H-I)	J	▲ 24,713	46,785	116,187	225,417	177,016
標 準 財 政 規 模	K	4,199,168	3,952,709	3,880,778	3,903,319	3,848,889
臨時財政対策債発行可能額	L	268,165	280,049	289,751	303,528	402,319
実質収支比率(E/K+L)	M	4.1	5.0	4.9	4.8	4.4

※財政健全化法に基づく健全化判断比率との整合性を図るため、臨時財政対策債発行可能額を含めた
標準財政規模で算定する取扱いとなったため。